

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の読みについて、教材文に出てくる言葉の理解が浅く、内容の読み取りが不十分な児童の姿が見られる。様々な補助資料や動作化等の工夫を行い、読みを深めさせることが課題である。 読み取ったことや考えたことを言葉で伝え合い、主体的に交流できるようになることが課題である。 個人差があるものの、既習の漢字を正しく読み書きできるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物や写真・絵などを用意し、視覚的な支援を行うことでイメージをもたせ、内容の理解につなげていく。また、辞書の活用を習慣化させ、語彙力を増やせるようにする。 ○普段から意見交流の場を多く設定し、自分の考えをわかりやすく伝える方法や交流のポイントを、繰り返し伝えていく。 ○日々の宿題である漢字練習ノートやテストの状況を分析し、練習の量や方法を見直すなどの対応をしていく。また、既習の漢字を復習する機会を設け、反復練習をしながら学習した漢字の確実な習熟を図っていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活している社会について疑問をもつことはできるが、その疑問について解決したいという思いをもち、それを持続させることが課題である。 調べたことをもとに、自分の考えをもったり、その考えを分かりやすくまとめたりすることが課題である。 グラフや年表など、資料を活用し始めたばかりなので、資料から読み取ることに慣れさせていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員が実際に歩いて調べ、資料を作成したり、地域の方々にインタビューし、その様子を撮影したりするなど、地域に密着した教材開発を行うことで学習意欲が持続するようにする。 ○調べたことや学習したことを、地図や新聞・作文など様々な表現方法で表す活動を繰り返し行っていく。 ○地図の読み方を繰り返し確認していくために、地図を身近なところに置き、いつでも確認できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九が苦手な児童が一定数おり、定着させていくことが課題である。 問題に応じ立式する力が弱い。式の意味について理解を深めていくことが課題である。 自分の考えを説明する力が弱い。説明の仕方を設定したり、少人数で説明する場を設けたりして説明することへの抵抗感を小さくしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけ算九九を定着させていくために、個別にプリントなどを渡し、繰り返し指導を行っていく。また、日常生活と関連付けて指導する。 ○分かっていること、聞かれていることにアンダーラインを引かせ、問題の意味を確実に理解できるようにする。 ○考えを発表する時間を十分に確保し、友達の説明の仕方のよいところを取り入れるように指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 植物の観察記録をする際、視点を確認してから取り組ませても個人差が見られる。植物の姿や成長が明確になるように観察することが課題である。 実験を行う際、楽しくなってしまう、実験を行う目的や事前に考えた予想との相違点を考えることを忘れてしまうことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察記録の視点を再度クラスで確認し、さらに、視点が明確になっている児童を全体に見せ、共通理解を図るとともに、観察のたびに繰り返し指導していく。 ○実験を行う直前に確認すること、また、実験中にも教員側から子供たちに考えさせる声かけを欠かさず行っていく。また、実験を行う際の流れを確実に定着させ、安全に行わせる。

	授業における課題 (児童の実態・教師の指導上の課題)	具体的な授業改善策
図 工	<ul style="list-style-type: none"> ・創作意欲が高く、熱心に取り組む児童が多い。一方、自由に発想することを苦手とする児童もいる。発想力を高めることが課題である。 ・創作意欲が途中で途切れてしまうことがある。児童の創作意欲を持続させていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つのテーマを提示し、児童の言葉を拾いながら、発想を膨らませる導入を工夫する。また、制作途中で発想豊かに描き進めている児童の作品を紹介し、様々な色の使い方や技法などに触れさせる。 ○用具の安全な使い方を徹底する。 ○作品制作の途中で鑑賞の時間を取り入れたり、参考作品を見せたりして、意欲の持続を図る。また、お互いの作品を褒め合ったり、教員から声掛けをしたりすることで、児童の創作意欲が持続できるようにする。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域全般において、楽しんで授業に取り組んではいるが、動き方や体の使い方が課題である。多様な運動経験を積ませていくことが重要である。 ・ボール運動等では、友達と作戦を考えたり、自分がどう動けばよいのかを考えたりしながら活動する場面が少ない。考える力を育てていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動きのポイントとなる資料（動画や写真等）を活用し、視覚的に体のどこをどう動かせばよいのかが分かるようにする。グループやペアで互いの動き方を見合うことで客観的に振り返れるようにする。また、可能であれば、教師がお手本となる動きを見せる。 ○運動の日常化のために、作戦ボードを使用したり、ワークシートを利用したりしながら、作戦を共有する時間を十分にとる。 ○学び合いの中で互いを思いやる言葉かけを促す。
道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が価値に迫れる発問を吟味し、構成していくことが課題である。 ・児童が、価値を一般化して日常生活にしっかり生かせるようにしていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師自身が教材分析を行った上で、児童の実態に合っているかを吟味し、児童の実態を踏まえてねらいを設定する必要がある。その上で、価値に迫れる発問を決めていく。 ○学習の後半に振り返る時間を設け、学習内容と自分との生活をつなげられるようにする。 ○自分の生活の振り返りについて、ペアやグループなどでの話し合いを有効に活用する。